

令和2年度 学校関係者評価（2月）

中津市立沖代小学校

- 1 学校の教育目標
自ら学びあい 仲間とともにやり抜く児童の育成
- 2 育成をめざす資質・能力
・自己の課題に気づき、解決のための活動を選び挑戦する力 ・他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する力
- 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準

A ……達成率90～100% B ……達成率70～ 89% C ……達成率60～ 69% D ……達成率60%未満

目指す資質・能力	重点目標	達成指標		V	取組指標	評価	感想・ご意見
【空きて働く知識・技能の習得】	わかるできるを実感する	○「わかった できた」と感じることでできる児童80% ○国語算数の単元テストで達成率80%以上 ○市学力調査達成率昨年より向上 ○児童アンケートで「時間やきまりを守って行動できる学校である」と答える割合が90%以上	学	○個に応じた指導を徹底し、全員に基礎基本を習得させ向上できる授業の推進	○ヒントカードやヒントコーナー、問題量の調節など、一時間の中に学年の実態に応じた個別指導の工夫を必ず取り入れる。	B	・授業がわかると感じる割合が増えたことは嬉しい。 ・C層の学力保障は日常的に必要なので、指導を続けてほしい。 ・読めなくてはどのようにいいかわからないので、読むことが伸びるような指導を重点的にするとよいのではないかと。 ・コロナ禍で様々な事を行うのが困難な中、習得のために工夫を重ねている様子が見える。 ・学校生活の中で各自が「次は何」を意識できて行動できるようになったのが素晴らしい。 ・子どもたちに励ましやプラスの声かけをすることは、大切なことであるが、家庭では忘れがちな事を改めて意識することは大切だと思う。 ・子どもとの会話、ノート、宿題等を通して学校でしていることを知ってもらうことは大事な取り組みであると思う。 ・リモートでの読み聞かせを小学校から提案してもらい、コロナ禍でも読み聞かせを続けることができよかったです。
			校	○時間を守ろうとする態度の育成	○授業開始の合図を守り、チャイム前着席を促す。	A	
			家庭	○学校での学習活動の確認	○子どものノート等を1週間に1回は見ながら、励ましの声かけをする。	B	
			地域	○学習サポーターやボランティア活動の充実	○どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとして学期に1回以上参加する。	B	
【采知の状況にも対応できる思考力・判断力・表】	他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する	○他者の意見を取り入れ思考を深める児童の割合80%以上 ○自ら進んで家庭学習に取り組む児童の割合 80%以上 ○児童アンケートで「進んで読書をしている」と答える児童70%以上 ○お互いの良さや違いを認め合う児童の割合80%以上	学	○学ぶ意味を理解し、主体的に進める学習活動および家庭学習・読書の確立	○学年に応じたねらいを持って他者と対話して学び合う場を1日1回は行う。 ○学習活動および家庭学習（読書）について全教職員が共通したイメージを持っているか確認するとともに、月に2回、家庭学習が読書のみ（+αは1つまで）の日を学校統一で設定し、実行する。	A	・コロナ禍であるが、授業で対話を大事にしているのはよい。 ・読書を学校が統一して設定したことは素晴らしい。 ・家庭学習と親子読書の取組については、大切な事で大変関心を持っている。子どもが在学中であれば、是非取り組んでみたかったと思う。 ・外に出て運動し、遊びながら体力づくりができるのは素晴らしい。 目標を持って計画に取り組むことができる。 学校から子ども達の元気な声が響いてくる毎日は、地域の方々への大きな励ましの力になっていると思います。 ・家庭学習とインターネット・ゲームの関係性は大きな課題である。
			校	○主体的に自分の学習・読書を計画できる力の育成	○家庭学習での読書する姿を見取り、親子で読書についての会話をする。 ○毎日自主的に取り組む家庭学習ガイドに沿って励ましの声かけをする。	A	
			家庭	○挨拶プラスワンの取り組みを進める	○登下校の子ども達への「おはよう」「おかえり」の声掛けを実施する。	B	
			地域	○人権的視点を大事にして授業や学校生活を展開し、安心感や将来への意欲向上	○友だちの話をしっかり聞き、相手の意見を大事にしなが、自分たちの生活をよりよくするための方法を考え振り返る場を設定する。	B	
【学びを人生や社会に生かそうとする学びに向き、仲間と共にやり抜く力】	自己や集団の課題に気づき、仲間と共にやり抜く力	○自分の生活や生き方を考えることができた児童80% ○学校や学年や学級の課題に気づき、自分たちで取り組みを決め、解決できると答える児童80% ○児童アンケートで「運動が楽しい」と答える割合が85%以上	学	○課題を改善してよりよい生活を作り出す力の育成	○学年や学級がより高まるための課題(あすなろそうち以外)を見つけて、問題解決につながる取り組みを考える活動ができる。	A	・児童アンケートでは80%以上の児童が学校を楽しんでいるとわかり、安心した。 ・人権という言葉をどんどん出して、意識づけることが大切だと思う。 ・地域には素晴らしい人材がいる。コロナ禍で難しい面もあるが、公民館と連携し大いに活用してほしい。コロナ禍後は、以前同様沖代小学校の活動をサポートしていきたい。
			校	○生活の中で主体的に運動に取り組むことができる力の育成	○休み時間にタイムを計るなどしながら50m走やハードル走に取り組んだり、鬼ごっこ集会を開いたりして、遊びながら体力づくりができる環境づくりを体育委員会と連動して行う。	A	
			家庭	○主体的に自分の生活を計画できる力の育成	○毎日のインターネット使用についてルールをつくり、定期的に児童と話し合う。	B	
			地域	○地域によさや課題を伝える	○単元や教材に応じたゲストティチャートとして活動を行う。	B	
【働き方の改革の推進】	め頼のうしあいの向上	○「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場である」と答える教職員の割合が80%以上	学	○チームで育てる学年・分掌運営	○課題の改善や緊急の対応を学年・分掌部等チームで行う。	A	・チームでやるという組織的な動きが、学校をよい方向に向かわせていると思う。 ・コロナ禍が収束した後は、地域から学習サポーターや読み聞かせ等以前と同様に、沖代小学校の活動のサポートをさせていただけるようお願いしている。
			校	○会議の精選	○会議の目的の明確化をし、水曜に各種会議を実施	A	
			家庭地域	働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	○学校の働き方改革について理解し、ゲストティーチャーやサポーターとして学校支援を行う。	B	